

不定期連載
第1回

SPLインプレッサ・スポーツワゴンの
ノウハウをストリートに生かす

突然のOPTION2 高速PRESS号誕生



製作してくれるシロマの顧問社長(左)、タカプロダクツの山下社長(右)と相談するDaiとマッキー。



「OPT2号のフロントはバンパーの下まで回り込んでいるけど、ノーマルバンパーに合わせるなら、こんなラインかな」とDaiとマッキー。



ブルーアス(マガジンハウス刊)のWAGON'S(定価550円)で16ページも特集されたんだぞ。



オーバーフェンダー、俺たちマニアにはなんとも快い響きだ。通称オバフェンには、ツーリングカーレースの熱気、ボディ改造の過激度、ぶっというタイヤを履くためのパワフルさ、スピードなど、あらゆる要素を象徴する響きがある。

突然ですが、このインプレッサ・ワゴンOPT2がブルーアス臨時増刊の「WAGON'S」という雑誌で発表したスペシャルワゴンです。どちらかという、「Daiの夢のワゴンを作る」という企画でスタートしたわけですが、せっかく作ったんなら、OPT2流に料理しようということに決定。で、このぶっというオーバーフェンダーを市販用にモディファイしてみようというわけなんです。しかし、オバフェンというのは、車幅問題があって、製品としては売りにくい、という声が多く、市販化の道は険しいわけですが、「過激路線は好きや、うちに作らせて！」と名乗りを上げたのが、関西はトライアルのマッキー牧原。ホント、このオヤジ、変わったことが好きですな～

なにしろオバフェンひとつで、フツのクルマがダイナミックに変身するのだから、エアスポイラーなんかより効果的なドレスアップ術といってもいい過ぎじゃない。

しかし、オバフェンには車幅変更の問題があり、車両運送法を守るなら、ちゃんと車検を受け直して、寸法の記載変更を受けなければならず、これを無視していると違法改造になるため、ショップレベルで製品化するには、どうしても、車幅に影響しないくらいのやつをオバフェン風に張りつけるしかない。これじゃ迫力も乏しいし、みんな苦労しながらオバフェン風を追求しているのが現状だ。

OPT2が製作したSPLインプレッサワゴンのオバフェンはワンオフモデルとして車検を取るから、かなり過激に広げている。しかし、ここまでやると極端すぎるかな。

で、ちゃんとしたオバフェンの機能を持たしたままで、どのくらいが市販製品として限界か、を作りながら探ってみようというわけだ。

Daiにいわせれば、「おまわりさんに捕まっても、口でごまかせるくらいで、しかも簡単に取り外せるのがいいな。本来ならちゃんと記載変更すれば問題ないんだけど、法の目を潜って楽